

第3回 野洲市総合計画審議会（分野1 専門部会）議事要旨

●日 時

令和7年10月3日（金） 13:30～16:00

●場 所

野洲市役所 本館3階 第1委員会室

●出席委員

前田 利幸 委員(部会長)

三村 益夫 委員

山本 博一 委員

岩澤 政宗 委員

※欠席：太田 信成 委員、喜多 幸次 委員、深津 昌江 委員

●市の出席者

【事務局】政策調整部（総合調整課）

【担当部局】総務部、健康福祉部（保険年金課、健康推進課、こども課、子育て家庭支援課、子育て支援センター、発達支援センター）教育委員会（学務課、生涯学習課、ふれあい教育相談センター、野洲図書館）

○会議概要

1. 開 会

2. 挨拶

…開会にあたり井狩部長より挨拶

…前田委員（部会長）より挨拶

3. 報告事項

…市民意向調査の結果について報告

〈質疑・意見等〉

委員	(2) 野洲市が実施している各施策の状況の「①子育てについての福祉・支援対策（施設・支援事業等）が充実している」の年代別データはあるか。子育てに関係のない世代には支援が充実しているかどうかは分からないのではないか。
事務局	→要約版にはないが、本編では年代別データも掲載している。20代から40代の若い世代の「あてはまる」と「ある程度あてはまる」を合わせた割合は次のとおりである。 【18歳～29歳】29.2%、【30歳～39歳】25.3%、【40歳～49歳】43.6% これを見ると、20代～30代の評価が低いことが読み取れる。
委員	→若年層の子育て支援に対する満足度が低いことを指標にしてはどうか。また、40代以降の方は満足度が高く、なぜ若年層とギャップがあるのか分析し、必要な施策を考えていく必要があるのではないか。

4. 審議事項

＜後期基本計画（案）について＞

- ・市民意向調査結果と、前回の審議会を経て修正した後期基本計画の各施策について、審議をお願いしたい。
- ・黄色に着色した部分が、前期計画から変更のあった箇所である。
- ・指標については、黄色のものは指標を置き換えたもの。色がついていないものは、前期と

同じ指標だが、これまでの取組を踏まえて、実績値は令和6年度の数値に、目標値は令和12年度の目標に更新している。

- ・基本計画の各施策については、今回の専門部会で概ねのとりまとめをさせていただければと考えている。本日の会議でのご意見を踏まえての修正事項については、各委員に確認をいただいた上で、次回の全体会へ付議させてもらいたい。

○質疑・意見等

1-1 子育て支援の充実	
委員	アンケート結果から、若年層が子育て支援に満足していないことが分かったが、指標に子育て世代が感じている充実度を加えるのはどうか。
担当課	→子育て支援事業計画（健康福祉部の個別計画）でアンケート調査を行ったところ、物価高騰により生活が厳しく子育てにストレスを感じてしまう、外に子どもが遊べる場所がない等の意見があった。今回のアンケート結果も踏まえた施策については、別の方法で示していきたい。
事務局	→総合計画には毎年度把握できる指標を載せたいと考えている。アンケートの結果は、健康福祉部所管の個別計画で反映させていただきたいと考えているため、ご了承いただきたい。 今回のアンケートでは40代の方の子育て施策に対する評価が高いことが分かったが、子育て支援事業計画で行ったアンケート調査では、子育てをされている40代の方は、学童保育所の充実を1番に挙げられている。この年代は学童を主に利用されている年代であり、指標として学童保育所の待機児童数を設定している。また、20～30代に対する指標としては、未就学児の待機児童数を設定している。
委員	→待機児童の現状は10名であり、20代～30代の子育て支援に関する満足度が低いのは、待機児童だけが原因ではないと考える。待機児童が原因と考えているなら、指標を変更する必要がある。毎年データをとるわけではないとのことだが、指標にせずとも何らかの方法で、結果を組み入れるべきではないか。
委員	現状・課題に「体力低下や運動能力の低下」とあるが、近年は気温が上昇し以前より危険が伴うため、外で遊ぶなくなっている。冷房を整備する等、施設のあり方を考えていただきたい。施設の改善を指標にしてはどうか。
担当課	→子どもたちにとっては外遊びも重要であり、施設整備の必要性も感じている。指標については、どのような指標にするか難しく、総合計画にどこまで細かい指標を設定できるか考える必要がある。
事務局	→満足度を指標として設定する方法もあり、他市町でも同様の方法で指標を設定されている例もある。本市でも指標について議論を重ねたが、後期基本計画ということもあり、前期基本計画の考え方を踏まえたものとした。具体的な指標等は各部局の個別計画にて反映していきたいと考えている。
委員	→総合計画に「体力低下や運動能力の低下」の文言を入れるなら、何かしらの指標が必要と考える。体力測定の結果を指標として使えないか。
担当課	→数字を出すことは可能と考えるが、細かい説明となるため総合計画に記載するかどうかは検討が必要である。
部会長	→総合計画としての指標であるため、難しい面もあるが、他の個別計画で反映できないか検討いただきたい。
1-2 青少年の健全育成	
委員	子どもたちは様々な体験を積み重ねて知識を習得していく。学校では体験できな

	いことを地域でさせてあげたいが、身近な所で子どもたちが楽しめるような場所が欲しい。希望が丘はリニューアルされたが、市としても身近な場所でこうした施設を考えてもらいたい。
担当課	→体験が不足していることは認識しており、体験活動の提供を行っていきたいと考えている。例えば放課後に「地域子ども教室」を開催しており、子どもたちが体験活動できるような取組をしている。場所については、財政面を踏まえ検討していききたい。
事務局	→野洲駅南口の整備事業やさざなみホールの活用方法として、子どもたちを含む市民の方々に集まっていただけるような土地利用を検討している。また野洲川MIZBEステーションの整備も進めており、防災機能がメインではあるが、市民の方々が自然に触れ合える活動ができる場所を想定している。現状、場所は不足しているが、今後このようなかたちで場所の整備を進めていきたい。
委員	小学校でPTAがなくなりつつある現状で、地域が一体となって子どもたちの健全育成をするため、コミュニティ・スクールの取組を各地域で進めているが、これを総合計画に入れられないか。詳細は個別計画で説明するにしても、コミュニティ・スクールは一般的な言葉になっているため記載するべきではないか。
担当課	→コミュニティ・スクールで地域と学校が一体となって子どもを育てていくことは大事な視点と考えている。しかし、若い人が参画してもらえないことが課題となっており、方向性について模索している段階である。
委員	「少年センターの相談件数」の指標について、前回の審議会で改善を検討するとあったが、変わっていない。相談件数が伸びることが良いことなのか。
担当課	→少年センターでの相談が終結した件数も指標にしてはどうかと事務局から提案されたが、相談が終わったかどうか判断がつきにくいこともあり、検討段階にある。指標として1つでは足りないと考えているため、不登校やひきこもりといった視点での指標について分析して示したい。
委員	→市民会議を担当している身として、スタッフが大事と考えている。スクールガードの人数などの、地域で子どもたちに関わる人数を指標としてはどうか。
委員	→スクールガードは良い案と考えるが、自治会に強制することに繋がり、やりたくない人がやらされる可能性がある。趣旨と異なることになる恐れがあるため慎重に検討するべきである。
担当課	→スクールガードはボランティア活動と位置づけており、学校も窓口の1つとしている。学区ごとにやり方が異なり、市で統一しているわけではない。
委員	→スクールガードも高齢化しており、活動を継続できるのか心配している。
担当課	→高齢化の課題は認識している。ボランティア活動であるため強制はせず、買い物しながら、散歩しながらといった「ながら見守り」で子どもたちを見守る方法もある。仰るとおりスクールガードは高齢化もあるため、向上を目指す指標として設定するのは難しい。
委員	→指標としてスクールガードに拘っているのではなく、人材育成という面で、見守り等の活動をしてくれる人数が見える指標があればと考えている。
委員	→取組に記されている「様々な体験・交流・学習活動の提供」の件数を指標とするのはどうか。
担当課	→検討する。
部会長	→指標や現状・課題等様々な意見が出た。これらの意見を踏まえ、検討いただきたい。
1-3 学校教育の充実	
委員	現状何が起きてどんな課題があるのか、市としてできることを考えていくために、教育現場にあるデータを整理して使えるようにする必要がある。個人と紐づ

	けた、データベースの構築を進めるべきではないか。現状記載されていないが、後期基本計画に入れることは可能か。
担当課	→学力・学習状況調査の結果は把握している。ほとんどの学校では夏休み中に結果の分析を行い、学習指導に生かす取組をしている。子どもたちの学力向上を図るためには、なぜそうなるのかといった課題解決的な思考の仕方を指導していく必要がある。教育委員会の教育研究所で、研究し研修する等の活動をしているが、劇的な成績向上に至っていない。現在、教員不足であるが若手の採用が増えている。若手の職員は経験が少ないため、研修を重ね授業力を磨く必要がある。指標として記載していないが、このような取組も行っている。
委員	→施策が効果的だったか、継続したデータがないと評価できない。長期的に構築していく必要があると考える。
委員	学校部活動の地域展開が進められているが、総合計画でも触れるべきではないか。その際に部活動の位置づけが重要である。
担当課	→コーディネーターを配置しながら、学校、スポーツ団体、文化団体等と協議を行っている。子どもたちのニーズと、大人たちが何をできるかをすり合わせながら、地域展開を図っていくのが目標である。しかし一気には進まないため、できるところから制度設計していく。指標については、担当課で検討の必要がある。
委員	→部活動は地域展開などの課題があるため、現状・課題に記述を入れるべきだと考える。
委員	学力・学習状況調査の結果を指標にできないか。学力を把握するような指標がないため、使えるのではないか。
担当課	→指標の2つ目と4つ目は、学習状況調査の結果を用いている。しかし指標については、毎年必ず同じものがあるわけではないため、令和12年度に成果を測る際にあるかどうか分からないが、今後も継続されると思われるものを指標として挙げている。また、学力と学習状況には相関や因果関係があるものと考えている。県では基礎的な学力を伸ばすため、読み解く力を重視されており、本市でもこれを踏まえた指標を設定している。 学力テストについては、平均との比較はできるが経年の比較はできない。IRTスコアは比較可能だが、現状は理科のみであり、今後広がっていけば多面的な分析ができるかもしれない。
委員	→全国で何位か分かるのか。
担当課	→マスコミでは順位を並べているが、文部科学省は競争には否定的であるため公表されていない。市としても指標にするべきではないと考えている。
委員	→学校図書館の年間貸出冊数は指標として弱いのではないか。学校の学習に対する理解度の方が指標として使えるのではないか。再検討をお願いしたい。
委員	取組方針と主な取組に、小中学校の体育館の空調の導入を記載していただきたい。子どもたちの安全を脅かす状態であり、早急に進める必要がある。
担当課	→夏場の体育の授業や避難所としての体育館活用の観点から、先行して中学校の体育館に空調の取り付けを進めている。
委員	不登校は大きな課題だと思う。支援に関する内容を指標にできないか。
担当課	→不登校の支援については、専門のカウンセラーによる保護者を含めた教育相談、ドリームと呼ばれる学校へ通えない子どもたちのための施設運営、学校に行けない子どもたちの自宅を訪問するアウトリーチ型のウィッシュの3つの事業を行っている。また、これらでカバーできない子どもへの支援として、フリースクールへの助成も行っている。これらの事業の件数を増やすことよりも、支援の届いていない子どもをゼロにすることを目標として取り組んでいる。

委員	→市の取組として見える形で表記しても良いのではないかな。
部会長	前回の審議会でも述べたが、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと答えた児童生徒の割合」とあるが、考えるだけでなく実行に移すことが重要である。行動をするためには、活動できる場が必要になる。実際に活動に参加した児童の数などを指標にできないか検討いただきたい。他市では、学校と地域が連携した地域貢献プロジェクトへの参加率を指標にされている例もある。行動に移せる子どもが増えることを期待している。
1-4 生涯学習・生涯スポーツ・文化芸術の推進	
委員	主な取組の「社会教育関係団体への支援」について、団体は現在4つしかない。分かりやすく団体名を記載する方が良いのではないかな。
事務局	→担当課に確認し、表記する。
委員	前回の審議会でも述べたが、スポーツ・文化施設の利用者数を、登録者数や新規登録者といった別の指標にできないか。同じ人が繰り返し利用していることは公平性の点で適切ではないのではないかな。
委員	→登録者は登録しているだけで使っていない方も多い。週に何度か使われるリピーターの方々もいるため、利用者数が適切と考える。
委員	→利用者数となると、市外の方も来ていると考えられる。またリピーターのための政策と捉えられる可能性がある。
委員	→湖南4市は提携しており、利用料金も統一されている。市外の方々を利用されるのは良いことだと考える。
委員	→同じ人が何度も利用し、新規で利用したい人には情報が届いていないのではないかな。以前総合体育館を使用したかったが、担当の方に個人ではできないと言われた。総合体育館をどうすれば利用できるのか分からない市民もいるのではないかな。実績値はリピーターがほとんどで、登録者や新規利用者の数は把握できていないのではないかな。
委員	→各施設でどのようなことができるかは、広報等の媒体で情報発信されている。市民の方々がその情報をどのように捉えられているかマッチングの問題であり、本件とは別課題であるため、指標としては利用者数で良いと考える。
事務局	→各施設の利用については、昨年4月からオンライン予約システムを導入し、より多くの人に利用いただけるよう、利用の促進を図っている。新規利用の数を把握するのはシステム上難しい。以前に意見をいただき、担当課でも検討したが、利用者数が最も適切という結論に至った。
委員	→利用者数が悪いのではなく、総合計画の指標としては疑問である。「生涯学習・生涯スポーツの機会」と記載されているため、学習やスポーツができる場所がどの程度整備されているのか分かるように記載することが総合計画では大事だと思う。施設での把握が難しいならアンケートで把握するのはどうか。指標にせずとも、現状の把握として記載するべきではないかな。
委員	スポーツやレクリエーション活動をすることは大切と考えるが、市民の方々は高齢化している。生きがいのある充実した生活を送るために、身近に運動やウォーキングできる場所を整備してほしい。
事務局	→福祉の分野の中の「健康づくり」の施策で取り組んでいきたい。
委員	→市だけの課題ではないため、地域と繋がりながら補助金等も検討し、進めていただきたい。
1-5 人権の尊重と多文化共生社会の実現	
委員	指標「日本語教室受講者数」の目標値を70人とされているが、もう少し上げて良いのではないかな。また費用の問題もあるため、ご検討いただきたい。
担当課	→外国人も5年で500名ほど増え、技能実習生も増加している。外国人への支援

	については、国際協会と相談しながら検討していきたい。
部会長	インターネットによる人権侵害について、子どもたちの SNS でのトラブルも増加しており、学校での指導に苦勞されている。情報が簡単に手に入る時代の今だからこそ、情報の取捨選択の力、他者を思いやる人権教育が必要であり、重点的に取り組む必要がある。子どもだけでなく大人も含め、人権に関する考え方を身に付けていくべきである。大人が変わらないと、子どもも変わらない。

5. その他

<今後のスケジュールについて>

- ・ 次回の第4回は全体会での開催となる。
- ・ 日程は11月21日（金）午後2時から、会場は今回と同様に第1委員会室にて行う。
- ・ 第4回では、今回審議いただいた基本計画だけでなく、基本構想と総合戦略も含めた計画全体について審議をお願いする。
- ・ 第4回の審議会後、計画案についてパブリックコメントの実施を予定している。
- ・ パブリックコメントの結果を踏まえ、来年1月には最終の審議会を予定している。

<本日の意見の反映について>

- ・ 本日の議論を踏まえた当該分野の基本計画については、修正したものを各委員に確認いただき、全体会の資料とさせていただく。

6. 閉会